

# 久留女木棚田米 召し上がれ

## 静岡文化芸術大生の引佐耕作隊

### 食べて景観保全を

静岡文化芸術大(浜松市中区)の学生15人でつくる「引佐耕作隊」は17日、北区引佐町の久留女木の棚田で栽培、収穫した米「久留女木 棚田の恵」の販売を同大の生協などで始めた。

授業やゼミの一環で、耕作放棄地で作った米を商品化し、棚田取り組み。現在は学生有志が活動を引き継ぎ、保全のモデルの確立を目指している。



久留女木の棚田で収穫した米をPRする学生  
〓浜松市中区の静岡文化芸術大

栽培したのはブランド米「にこまる」。学生らは田植えや稲刈りのほか、週1回はレンタカーで棚田を訪れ、除草など管理作業に汗を流した。5種類ある商品パッケージの作製は同大のデザイン学部

の学生に依頼した。多様な生き物の生息地になることや貯水機能など、棚田の役割を伝える絵柄を表している。

富田菜々美さん(1年)は「活動に参加して久留女木の棚田を初めて知った。きれいな景観を守るため、買って食べて応援してほしい」と呼び掛けた。

販売数量は1袋(300g) 500円(税)

込み)で、300袋。生協のほか、浜松料理「じねん」(中区田町)、「KISSA&DIN INGS山ノ舎」(天竜区俣町)、「水窪の里の駅 碧」(同区水窪町)で販売している。通信販売もあり、電子メールで注文を受け付ける。メールは<tanadanomesumi\_inasa@yahoo.co.jp>。

(浜松総局・柿田史雄)

